

## アホというのはどんな意味

「カンベさん、アホという日本語は、どんな意味ですか」

雑談していたとき、課長補佐のホセが聞いてきた。彼は工場ができたときから働いており、人懐っこい性格で人気者である。歴代の駐在員から覚えた日本語も少し知っている。

ピンときた。意味を知っていて聞いているな。そこで、

「アホという日本語に特別な意味はないヨ。英語で言うアーとかエーとか意味の無い言葉だよ」とごまかした。

メキシコ人は、聞いたことがあることは「詳しく知っています」。見たことがある仕事は「よくできます」。一度でも経験したことがあることは「ベテランです」と言う。

このため、メキシコ人の任せてくださいという言葉信じると、ひどい目にあう。指示を出す時は十分注意して行うがいそがしきにかまけて曖昧な指示を出す、とんでもないとばかりが返ってくる。

あるとき倉庫の担当者A君に、今〇〇機種の商品は何台あるか、詳しく数えてくれるよう依頼した。少ししてA君が報告に来た。

「二一五台ありました」

札を言い、念のため倉庫に確認しに行った。〇〇機種の所に行くと、外箱に大きなチェックマークが入っている。それも白い箱に黒色のマジックインクで書かれている。どうしたのかと聞くと、間違っではいけないので印を付け、数えたと言う。

カンベンしてくれ。常識だろう。箱にチェックの入った商品を誰が買う。箱は使い物にならない。数の数え方まで指導

しなければいけないのか。今までどうしていたのだ。このアホが。

またあるとき、スクラップを売却することになった。メキシコ人の資材課長が、メキシコ国内で売るよりアメリカの方が高く売れると言う。

トラックにドラム缶や鉄くずを積んで、国境に向かった。ところが通関中にトラックから油が落ちているのが見つかった。

アメリカの係官は、この油はどこから落ちているのかを調べるため、トラック一杯のスクラップを全て下ろすよう命令した。すると、積荷のドラム缶から油が落ちていたのが分かった。係官は、この油が有害物質ではないかと疑い、通関を中止して油の分析を国の分析機関に送った。

スクラップ代なんか知れている。油の分析代は目の玉が飛び出るくらい高かった。アメリカで売れば高く売れる。それは良い考えだ。しかし、穴の開いたドラム缶の底に、油が残っているのはだめだということを考えない。お前らアホか。いい加減にしろ。

駐在員は毎月、日本にレポートを提出している。生産状況、生産性向上とコストダウン、品質について細かい目標が設定されている。実績が未達成のときは、厳しい叱責がくる。

ここは日本ではないんだから、ちよつとはこちらの事情も察してよ。でも日本側は容赦ない。メキシコと日本との狭間で苦悩する我々は、日本を見て仕事をせざるを得ない。

厳しい目標を達成するのにミスは許されない。前記のようなことが繰り返し起こると、怒鳴りたくもなる。

しかし、英語やスペイン語でアホとか、バカヤロウと言うと、プライドの高いメキシコ人との間で大問題発生となる。最悪の場合は、侮辱罪でメキシコ入国禁止となる。これが分かっているから、彼ら

に分からない日本語で、アホかバカヤロ  
ウと怒鳴ることになる。

メキシコ人が覚えてしまうほど繰り返し  
返されるアホという言葉には、歴代駐在  
員の怒りと、悲しさ、無念さがこもつ  
ているのである。

平成三十二年一月